

【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書の訂正届出書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成31年2月21日
【発行者名】	大和住銀投信投資顧問株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 後藤 正明
【本店の所在の場所】	東京都千代田区霞が関三丁目2番1号
【事務連絡者氏名】	植松 克彦
【電話番号】	03-6205-0200
【届出の対象とした募集内国投資信託 受益証券に係るファンドの名称】	Y M ・ ジャパン ・ イノベーション ・ オープン
【届出の対象とした募集内国投資信託 受益証券の金額】	1兆円を上限とします。
【縦覧に供する場所】	該当ありません。

1【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

平成30年8月21日付をもって提出した有価証券届出書（以下「原届出書」といいます。）の記載事項のうち、有価証券報告書の提出等に伴う訂正事項がありますので、本訂正届出書を提出するものであります。

2【訂正箇所および訂正事項】

第一部【証券情報】

下線部は訂正部分を示します。

<訂正前>

(4)発行(売出)価格

(以下略)

大和住銀投信投資顧問株式会社

<インターネットホームページ> <http://www.daiwasbi.co.jp/>

<お電話によるお問い合わせ先> 受付窓口：(電話番号) 0120-286104

受付時間：午前9時から午後5時まで(土、日、祝日除く。)

(以下略)

(8)申込取扱場所

(以下略)

大和住銀投信投資顧問株式会社

<インターネットホームページ> <http://www.daiwasbi.co.jp/>

<お電話によるお問い合わせ先> 受付窓口：(電話番号) 0120-286104

受付時間：午前9時から午後5時まで(土、日、祝日除く。)

(以下略)

<訂正後>

(4)発行(売出)価格

(以下略)

大和住銀投信投資顧問株式会社

<インターネットホームページ> <https://www.daiwasbi.co.jp/>

<お電話によるお問い合わせ先> 受付窓口：(電話番号) 0120-286104

受付時間：午前9時から午後5時まで(土、日、祝日除く。)

(以下略)

(8)申込取扱場所

(以下略)

大和住銀投信投資顧問株式会社

<インターネットホームページ> <https://www.daiwasbi.co.jp/>

<お電話によるお問い合わせ先> 受付窓口：(電話番号) 0120-286104

受付時間：午前9時から午後5時まで(土、日、祝日除く。)

(以下略)

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1 ファンドの性格

下線部は訂正部分を示します。

<訂正前>

(1) ファンドの目的及び基本的性格

(以下略)

ファンドの基本的性格

(以下略)

<商品分類表>

(以下略)

上記以外の各区分の定義の詳細については、一般社団法人投資信託協会のホームページ (<http://www.toushin.or.jp/>) をご参照ください。

<属性区分表>

(以下略)

上記以外の各区分の定義の詳細については、一般社団法人投資信託協会のホームページ (<http://www.toushin.or.jp/>) をご参照ください。

(以下略)

(3) ファンドの仕組み

(以下略)

委託会社等の概況（2018年6月末現在）

(以下略)

・大株主の状況

名称	住所	所有株式数 (株)	比率 (%)
株式会社大和証券グループ 本社	東京都千代田区丸の内1-9-1 グラントウキョウ ノースタワー	1,692,500	44.0
株式会社三井住友フィナン シャルグループ	東京都千代田区丸の内1-1-2	1,692,500	44.0
<u>ティー・アール・ピー・ エイチ・コーポレーション</u>	<u>アメリカ合衆国21202,メリーランド州 ボルチモア イースト プラットスト リート100</u>	385,000	10.0

<訂正後>

(1) ファンドの目的及び基本的性格

(以下略)

ファンドの基本的性格

(以下略)

<商品分類表>

(以下略)

上記以外の各区分の定義の詳細については、一般社団法人投資信託協会のホームページ (<https://www.toushin.or.jp/>) をご参照ください。

<属性区分表>

(以下略)

上記以外の各区分の定義の詳細については、一般社団法人投資信託協会のホームページ (<https://www.toushin.or.jp/>) をご参照ください。

(以下略)

(3) ファンドの仕組み

(以下略)

委託会社等の概況(2018年11月末現在)

(以下略)

・大株主の状況

名称	住所	所有株式数 (株)	比率 (%)
株式会社大和証券グループ 本社	東京都千代田区丸の内1-9-1 グラントウキョウ ノースタワー	1,885,000	48.96
株式会社三井住友フィナン シャルグループ	東京都千代田区丸の内1-1-2	1,885,000	48.96
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1-4-1	80,000	2.08

2 投資方針

下線部は訂正部分を示します。

<訂正前>

(3)運用体制

(以下略)

*当ファンドの運用体制に係る運用部門の人員数は、2018年6月末現在で約100名です。

(以下略)

<訂正後>

(3)運用体制

(以下略)

*当ファンドの運用体制に係る運用部門の人員数は、2018年11月末現在で約100名です。

(以下略)

[次へ](#)

3 投資リスク

< リスクの管理体制 >

下線部は訂正部分を示します。

< 訂正前 >

委託会社のファンドの運用におけるリスク管理については、運用部門から独立した組織体制で行っております。

名称および人員数	内容
運用管理委員会 (20名程度)	ファンドの運用状況を総合的に分析・評価するとともに、運用リスク管理の強化・改善に向けた方策を討議・決定します。
リスク管理委員会 (14名程度)	運用リスクを除く経営リスクを適時、的確に把握し、適切な具体的措置を講じ、リスクの軽減・管理に努めます。
監査部 (4名程度)	取締役会直轄として、各部室の業務が適正な内部管理態勢のもと、法令等に従って行われているかを点検します。
コンプライアンス・オフィサー (1名)	コンプライアンスの観点から各部室の指導・監督を行うと同時に、法令等の遵守体制の維持・強化に向けた役職員の啓蒙・教化に努めます。
法務コンプライアンス部 (6名程度)	社内諸規程の統括・管理を行うほか、インサイダー情報の管理や広報内容のチェック等、法令違反等を未然に防止するために日常的な活動を行います。
リスク管理部 (17名程度)	約定内容と取引報告書を照合する等、発注業務の監視および約定価格の妥当性の点検を行うほか、社内事務フローに係る企画・立案および管理等を行います。
運用審査室 (9名程度)	ファンドのパフォーマンス分析・評価並びにリスク分析を行い、運用部門に開示するとともに、運用管理委員会を通じて、運用リスクの軽減に向けた提言を行います。
トレーディング部 (16名程度)	有価証券の売買発注は、トレーディング部が最良執行の観点を踏まえて行います。

(以下略)

< 訂正後 >

委託会社のファンドの運用におけるリスク管理については、運用部門から独立した組織体制で行っております。

名称および人員数	内容
運用管理委員会 (20名程度)	ファンドの運用状況を総合的に分析・評価するとともに、運用リスク管理の強化・改善に向けた方策を討議・決定します。
リスク管理委員会 (14名程度)	運用リスクを除く経営リスクを適時、的確に把握し、適切な具体的措置を講じ、リスクの軽減・管理に努めます。
監査部 (5名程度)	取締役会直轄として、各部室の業務が適正な内部管理態勢のもと、法令等に従って行われているかを点検します。
コンプライアンス・オフィサー (1名)	コンプライアンスの観点から各部室の指導・監督を行うと同時に、法令等の遵守体制の維持・強化に向けた役職員の啓蒙・教化に努めます。
法務コンプライアンス部 (7名程度)	社内諸規程の統括・管理を行うほか、インサイダー情報の管理や広報内容のチェック等、法令違反等を未然に防止するために日常的な活動を行います。
リスク管理部 (18名程度)	約定内容と取引報告書を照合する等、発注業務の監視および約定価格の妥当性の点検を行うほか、社内事務フローに係る企画・立案および管理等を行います。

運用審査室 (9名程度)	ファンドのパフォーマンス分析・評価並びにリスク分析を行い、運用部門に開示するとともに、運用管理委員会を通じて、運用リスクの軽減に向けた提言を行います。
トレーディング部 (16名程度)	有価証券の売買発注は、トレーディング部が最良執行の観点を踏まえて行います。

(以下略)

<参考情報>

原届出書の内容は下記事項の内容に訂正されます。

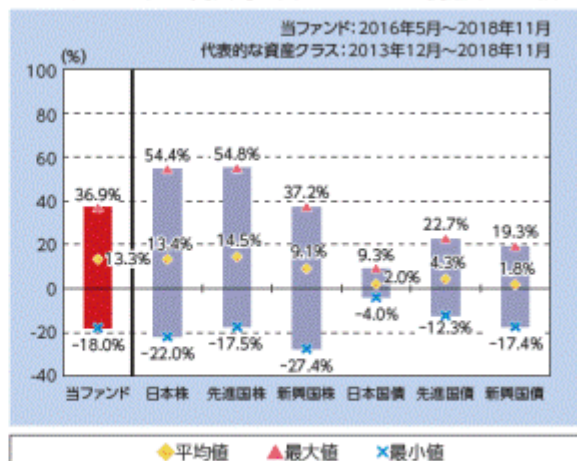
ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移



※年間騰落率は、上記期間の各月末における直近1年間の騰落率を表示しています。

※年間騰落率および分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとして計算しているため、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率および実際の基準価額とは異なる場合があります。

当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※上記グラフは、上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示したものであり、当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成しています。全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

※ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとして計算しているため、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

(注)上記グラフにおいて、当ファンドと代表的な資産クラスのデータの期間が異なりますので、ご注意ください。

<各資産クラスの指数について>

資産クラス	指数名	権利者
日本株	TOPIX(配当込み)	株式会社東京証券取引所
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)	MSCI Inc.
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)	MSCI Inc.
日本国債	NOMURA-BPI国債	野村證券株式会社
先進国債	FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)	FTSE Fixed Income LLC
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド(円ベース)	J.P.Morgan Securities LLC

(注)上記指数に関する著作権等の知的財産権およびその他一切の権利は、各権利者に帰属します。各権利者は、当ファンドの運用に関して一切の責任を負いません。

[次へ](#)

4 手数料等及び税金

下線部は訂正部分を示します。

< 訂正前 >

(5) 課税上の取扱い

(以下略)

* 上記の内容は2018年6月末現在のものですので、税法等が変更・改正された場合には、変更になることがあります。

(以下略)

< 訂正後 >

(5) 課税上の取扱い

(以下略)

* 上記の内容は2018年11月末現在のものですので、税法等が変更・改正された場合には、変更になることがあります。

(以下略)

[前へ](#) [次へ](#)

5 運用状況

原届出書の内容は下記事項の内容に訂正されます。

YM・ジャパン・イノベーション・オープン

(1)投資状況

（平成30年11月末現在）

投資資産の種類	国・地域名	時価合計（円）	投資比率
親投資信託受益証券 （ジャパン・イノベーションマザーファンド）	日本	775,845,979	83.28%
親投資信託受益証券 （山口・地方創生マザーファンド）	日本	156,131,437	16.76%
コール・ローン、その他の資産（負債控除後）		352,369	0.04%
純資産総額		931,625,047	100.00%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(2)投資資産

投資有価証券の主要銘柄

（平成30年11月末現在）

イ．主要銘柄の明細

	銘柄名 国・地域	種類 業種	株数、口数 又は額面金額	簿価単価(円) 簿価(円)	評価単価(円) 時価(円)	利率(%) 償還期限	投資 比率
1	ジャパン・イノベーションマ ザーファンド 日本	親投資信託受益 証券 -	615,164,906	1.2193	1.2612	-	83.28%
				750,070,577	775,845,979	-	
2	山口・地方創生マザーファンド 日本	親投資信託受益 証券 -	137,113,759	1.1090	1.1387	-	16.76%
				152,059,159	156,131,437	-	

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

種類別	投資比率
親投資信託受益証券	100.04%
合計	100.04%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類の時価の比率です。

ハ．投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

投資不動産物件

（平成30年11月末現在）

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

（平成30年11月末現在）

該当事項はありません。

(3)運用実績

純資産の推移

	純資産総額（百万円）		1口当りの純資産額（円）	
	（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
設定時 （平成27年5月29日）	4,492	-	1.0000	-
第1特定期間末 （平成27年11月24日）	5,518	-	0.9847	-
第2特定期間末 （平成28年5月23日）	4,611	-	0.8508	-
第3特定期間末 （平成28年11月21日）	2,797	-	0.9388	-
第4特定期間末 （平成29年5月22日）	2,264	2,410	1.0079	1.0679
第5特定期間末 （平成29年11月21日）	1,323	1,508	1.0420	1.1820
平成29年11月末日	1,321	-	1.0375	-
平成29年12月末日	1,331	-	1.0528	-
平成30年1月末日	1,344	-	1.0721	-
平成30年2月末日	1,250	-	1.0160	-
平成30年3月末日	1,180	-	0.9982	-
平成30年4月末日	1,177	-	1.0150	-
第6特定期間末 （平成30年5月21日）	1,138	1,208	1.0059	1.0659
平成30年5月末日	1,091	-	0.9728	-

平成30年6月末日	1,051	-	0.9535	-
平成30年7月末日	1,032	-	0.9662	-
平成30年8月末日	1,001	-	0.9665	-
平成30年9月末日	1,031	-	1.0055	-
平成30年10月末日	917	-	0.8985	-
第7特定期間末 (平成30年11月21日)	903	-	0.8847	-
平成30年11月末日	931	-	0.9137	-

(注) 純資産総額は百万円未満切捨てで表記しております。

分配の推移

期間	1口当りの分配金(円)
第1特定期間(平成27年5月29日～平成27年11月24日)	0
第2特定期間(平成27年11月25日～平成28年5月23日)	0
第3特定期間(平成28年5月24日～平成28年11月21日)	0
第4特定期間(平成28年11月22日～平成29年5月22日)	0.0600
第5特定期間(平成29年5月23日～平成29年11月21日)	0.1400
第6特定期間(平成29年11月22日～平成30年5月21日)	0.0600
第7特定期間(平成30年5月22日～平成30年11月21日)	0

収益率の推移

期間	収益率
第1特定期間(平成27年5月29日～平成27年11月24日)	1.5%
第2特定期間(平成27年11月25日～平成28年5月23日)	13.6%
第3特定期間(平成28年5月24日～平成28年11月21日)	10.3%
第4特定期間(平成28年11月22日～平成29年5月22日)	13.8%
第5特定期間(平成29年5月23日～平成29年11月21日)	17.3%
第6特定期間(平成29年11月22日～平成30年5月21日)	2.3%
第7特定期間(平成30年5月22日～平成30年11月21日)	12.0%

(注) 収益率 = (当特定期末分配付基準価額 - 前特定期末分配付基準価額) ÷ 前特定期末分配付基準価額 × 100

(4) 設定及び解約の実績

期間	設定総額(円)	解約総額(円)
第1特定期間(平成27年5月29日～平成27年11月24日)	5,686,577,861	82,556,287
第2特定期間(平成27年11月25日～平成28年5月23日)	62,868,651	246,548,913
第3特定期間(平成28年5月24日～平成28年11月21日)	581,582	2,440,733,024
第4特定期間(平成28年11月22日～平成29年5月22日)	17,250,337	750,328,209
第5特定期間(平成29年5月23日～平成29年11月21日)	25,250,441	1,002,434,305
第6特定期間(平成29年11月22日～平成30年5月21日)	39,957,919	178,353,776
第7特定期間(平成30年5月22日～平成30年11月21日)	11,008,026	121,675,672

(注) 本邦外における設定及び解約の実績はありません。

(参考) マザーファンドの運用状況

ジャパン・イノベーションマザーファンド

(1) 投資状況

(平成30年11月末現在)

投資資産の種類	国・地域名	時価合計(円)	投資比率
株式	日本	682,868,570	88.02%
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)		92,979,781	11.98%
純資産総額		775,848,351	100.00%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

その他の資産の投資状況

(平成30年11月末現在)

投資資産の種類	国・地域名	買建/ 売建	時価合計(円)	投資比率
株価指数先物	日本	買建	83,400,000	10.75%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

(2) 投資資産

投資有価証券の主要銘柄

(平成30年11月末現在)

イ. 主要銘柄の明細

	銘柄名 国・地域	種類 業種	株数、口数 又は額面金額	簿価単価(円) 簿価(円)	評価単価(円) 時価(円)	利率(%) 償還期限	投資 比率
1	日本電産 日本	株式 電気機器	1,500	13,805.00 20,707,500	15,120.00 22,680,000	- -	2.92%

2	日本電信電話 日本	株式 情報・通信業	4,700	4,620.00 21,714,000	4,680.00 21,996,000	-	2.84%
3	ソニー 日本	株式 電気機器	3,700	5,686.00 21,038,200	5,937.00 21,966,900	-	2.83%
4	キーエンス 日本	株式 電気機器	300	61,580.00 18,474,000	61,600.00 18,480,000	-	2.38%
5	信越化学工業 日本	株式 化学	1,800	9,844.00 17,719,200	10,135.00 18,243,000	-	2.35%
6	S M C 日本	株式 機械	400	37,900.00 15,160,000	38,480.00 15,392,000	-	1.98%
7	三菱商事 日本	株式 卸売業	4,700	2,985.50 14,031,850	3,062.00 14,391,400	-	1.85%
8	ビジョン 日本	株式 情報・通信業	2,900	4,375.00 12,687,500	4,775.00 13,847,500	-	1.78%
9	任天堂 日本	株式 その他製品	400	31,020.00 12,408,000	34,610.00 13,844,000	-	1.78%
10	村田製作所 日本	株式 電気機器	700	16,040.00 11,228,000	17,315.00 12,120,500	-	1.56%
11	日本郵政 日本	株式 サービス業	8,100	1,371.00 11,105,100	1,382.00 11,194,200	-	1.44%
12	K H ネオケム 日本	株式 化学	3,600	3,295.00 11,862,000	3,045.00 10,962,000	-	1.41%
13	三菱UFJフィナンシャル・グループ 日本	株式 銀行業	16,800	635.80 10,681,440	624.50 10,491,600	-	1.35%
14	三井不動産 日本	株式 不動産業	3,700	2,691.50 9,958,550	2,715.00 10,045,500	-	1.29%
15	S C S K 日本	株式 情報・通信業	2,200	4,355.00 9,581,000	4,505.00 9,911,000	-	1.28%
16	住友ベークライト 日本	株式 化学	2,400	3,855.00 9,252,000	4,120.00 9,888,000	-	1.27%
17	ビジョン 日本	株式 その他製品	2,100	4,785.00 10,048,500	4,675.00 9,817,500	-	1.27%
18	新日鉄住金ソリューションズ 日本	株式 情報・通信業	2,800	3,155.00 8,834,000	3,245.00 9,086,000	-	1.17%
19	大和ハウス工業 日本	株式 建設業	2,500	3,436.00 8,590,000	3,575.00 8,937,500	-	1.15%
20	ローム 日本	株式 電気機器	1,100	7,690.00 8,459,000	7,900.00 8,690,000	-	1.12%
21	M C J 日本	株式 電気機器	10,800	749.00 8,089,200	799.00 8,629,200	-	1.11%
22	中外製薬 日本	株式 医薬品	1,100	7,090.00 7,799,000	7,770.00 8,547,000	-	1.10%
23	神戸物産 日本	株式 卸売業	2,400	3,230.00 7,752,000	3,480.00 8,352,000	-	1.08%
24	富士フィルムホールディングス 日本	株式 化学	1,800	4,399.00 7,918,200	4,510.00 8,118,000	-	1.05%
25	丸井グループ 日本	株式 小売業	3,300	2,349.00 7,751,700	2,447.00 8,075,100	-	1.04%
26	東京エレクトロン 日本	株式 電気機器	500	15,355.00 7,677,500	15,875.00 7,937,500	-	1.02%
27	ソフトバンクグループ 日本	株式 情報・通信業	800	8,865.00 7,092,000	9,526.00 7,620,800	-	0.98%
28	H O Y A 日本	株式 精密機器	1,100	6,783.00 7,461,300	6,900.00 7,590,000	-	0.98%
29	東レ 日本	株式 繊維製品	8,400	902.90 7,584,360	890.30 7,478,520	-	0.96%
30	住友化学 日本	株式 化学	12,000	591.00 7,092,000	616.00 7,392,000	-	0.95%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ. 投資有価証券の種類別投資比率

種類別	投資比率
株式	88.02%
合計	88.02%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類の時価の比率です。

ハ. 投資株式の業種別投資比率

業種別	投資比率
(国内)	
電気機器	18.14%
情報・通信業	12.36%
化学	9.11%

機械	7.59%
卸売業	4.83%
輸送用機器	3.66%
サービス業	3.65%
保険業	3.54%
医薬品	3.32%
その他製品	3.05%
精密機器	2.94%
小売業	2.79%
食料品	2.40%
建設業	2.29%
銀行業	2.12%
不動産業	1.29%
ガラス・土石製品	1.29%
繊維製品	0.96%
空運業	0.94%
その他金融業	0.52%
非鉄金属	0.41%
鉄鋼	0.40%
陸運業	0.24%
金属製品	0.16%
小計	88.02%
合計	88.02%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該業種の時価の比率です。

投資不動産物件

（平成30年11月末現在）

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

（平成30年11月末現在）

種類	地域	資産名	買建 / 売建	数量	簿価(円)	時価(円)	投資比率
株価指数先物	日本	TOPIX 先物 3012月	買建	5	80,675,000	83,400,000	10.75%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

山口・地方創生マザーファンド

(1) 投資状況

（平成30年11月末現在）

投資資産の種類	国・地域名	時価合計(円)	投資比率
株式	日本	137,107,700	87.81%
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)		19,029,175	12.19%
純資産総額		156,136,875	100.00%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

その他の資産の投資状況

（平成30年11月末現在）

投資資産の種類	国・地域名	買建 / 売建	時価合計(円)	投資比率
株価指数先物	日本	買建	16,680,000	10.68%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

(2) 投資資産

投資有価証券の主要銘柄

（平成30年11月末現在）

イ. 主要銘柄の明細

	銘柄名 国・地域	種類 業種	株数、口数 又は額面金額	簿価単価(円) 簿価(円)	評価単価(円) 時価(円)	利率(%) 償還期限	投資比率
1	日産化学 日本	株式 化学	1,100	5,760.00 6,336,000	6,160.00 6,776,000	- -	4.34%
2	西武ホールディングス 日本	株式 陸運業	2,800	2,147.00 6,011,600	2,098.00 5,874,400	- -	3.76%
3	エディオン 日本	株式 小売業	4,600	1,170.00 5,382,000	1,248.00 5,740,800	- -	3.68%
4	アサヒグループホールディングス 日本	株式 食料品	1,100	4,853.00 5,338,300	4,754.00 5,229,400	- -	3.35%
5	フジシールインターナショナル	株式	1,200	3,560.00	4,090.00	-	3.14%

	日本	その他製品		4,272,000	4,908,000	-	
6	西日本旅客鉄道 日本	株式 陸運業	600	7,929.00 4,757,400	7,909.00 4,745,400	-	3.04%
7	五洋建設 日本	株式 建設業	6,500	657.00 4,270,500	716.00 4,654,000	-	2.98%
8	九州旅客鉄道 日本	株式 陸運業	1,200	3,565.00 4,278,000	3,750.00 4,500,000	-	2.88%
9	ニチレイ 日本	株式 食料品	1,400	3,175.00 4,445,000	3,205.00 4,487,000	-	2.87%
10	ソルハホールディングス 日本	株式 小売業	400	11,140.00 4,456,000	11,200.00 4,480,000	-	2.87%
11	レンゴー 日本	株式 パルプ・紙	4,500	919.00 4,135,500	963.00 4,333,500	-	2.78%
12	豊田自動織機 日本	株式 輸送用機器	700	5,630.00 3,941,000	5,820.00 4,074,000	-	2.61%
13	三井化学 日本	株式 化学	1,400	2,906.00 4,068,400	2,881.00 4,033,400	-	2.58%
14	テルモ 日本	株式 精密機器	600	6,254.00 3,752,400	6,685.00 4,011,000	-	2.57%
15	イズミ 日本	株式 小売業	600	6,510.00 3,906,000	6,430.00 3,858,000	-	2.47%
16	東ソー 日本	株式 化学	2,300	1,624.00 3,735,200	1,600.00 3,680,000	-	2.36%
17	日本水産 日本	株式 水産・農林業	5,300	701.00 3,715,300	686.00 3,635,800	-	2.33%
18	宇部興産 日本	株式 化学	1,400	2,593.00 3,630,200	2,587.00 3,621,800	-	2.32%
19	山口フィナンシャルグループ 日本	株式 銀行業	3,000	1,171.00 3,513,000	1,176.00 3,528,000	-	2.26%
20	協和発酵キリン 日本	株式 医薬品	1,500	2,230.00 3,345,000	2,327.00 3,490,500	-	2.24%
21	日本たばこ産業 日本	株式 食料品	1,200	2,816.00 3,379,200	2,823.50 3,388,200	-	2.17%
22	ディスコ 日本	株式 機械	200	16,920.00 3,384,000	16,550.00 3,310,000	-	2.12%
23	西日本鉄道 日本	株式 陸運業	1,100	2,896.00 3,185,600	2,958.00 3,253,800	-	2.08%
24	日本ゼオン 日本	株式 化学	2,400	1,082.00 2,596,800	1,154.00 2,769,600	-	1.77%
25	九電工 日本	株式 建設業	600	4,270.00 2,562,000	4,415.00 2,649,000	-	1.70%
26	スタンレー電気 日本	株式 電気機器	800	3,265.00 2,612,000	3,305.00 2,644,000	-	1.69%
27	武田薬品工業 日本	株式 医薬品	600	4,319.00 2,591,400	4,255.00 2,553,000	-	1.64%
28	トクヤマ 日本	株式 化学	700	2,749.00 1,924,300	3,110.00 2,177,000	-	1.39%
29	九州電力 日本	株式 電気・ガス業	1,500	1,349.00 2,023,500	1,333.00 1,999,500	-	1.28%
30	雪印メグミルク 日本	株式 食料品	600	3,085.00 1,851,000	3,160.00 1,896,000	-	1.21%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

種類別	投資比率
株式	87.81%
合計	87.81%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類の時価の比率です。

ハ．投資株式の業種別投資比率

業種別	投資比率
（国内）	
化学	16.55%
陸運業	11.77%
食料品	10.75%
小売業	9.63%
建設業	7.01%
機械	4.39%
医薬品	3.87%
その他製品	3.14%
輸送用機器	3.00%
パルプ・紙	2.78%

精密機器	2.57%
電気機器	2.55%
水産・農林業	2.33%
銀行業	2.26%
電気・ガス業	1.83%
非鉄金属	1.59%
卸売業	0.91%
ゴム製品	0.88%
小計	87.81%
合計	87.81%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該業種の時価の比率です。

投資不動産物件

（平成30年11月末現在）

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

（平成30年11月末現在）

種類	地域	資産名	買建 / 売建	数量	簿価(円)	時価(円)	投資比率
株価指数先物	日本	TOPIX 先物 3012月	買建	1	16,135,000	16,680,000	10.68%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

（参考情報）



● 主要な資産の状況

投資銘柄	投資比率
ジャパン・イノベーションマザーファンド	83.3%
山口・地方創生マザーファンド	16.8%

■参考情報(上位10銘柄)

ジャパン・イノベーションマザーファンド

	投資銘柄	業種	投資比率
1	日本電産	電気機器	2.9%
2	日本電信電話	情報・通信業	2.8%
3	ソニー	電気機器	2.8%
4	キーエンス	電気機器	2.4%
5	信越化学工業	化学	2.4%
6	SMC	機械	2.0%
7	三菱商事	卸売業	1.9%
8	ビジョン	情報・通信業	1.8%
9	任天堂	その他製品	1.8%
10	村田製作所	電気機器	1.6%

*投資比率は全て純資産総額対比

*業種は東証33業種分類

山口・地方創生マザーファンド

	投資銘柄	業種	投資比率
1	日産化学	化学	4.3%
2	西武ホールディングス	陸運業	3.8%
3	エディオン	小売業	3.7%
4	アサヒグループホールディングス	食料品	3.3%
5	フジシールインターナショナル	その他製品	3.1%
6	西日本旅客鉄道	陸運業	3.0%
7	五洋建設	建設業	3.0%
8	九州旅客鉄道	陸運業	2.9%
9	ニチレイ	食料品	2.9%
10	ツルハホールディングス	小売業	2.9%

●年間収益率の推移



*ファンドの収益率は暦年ベースで表示しております。但し、2015年は当初設定日(2015年5月29日)から年末までの収益率、2018年は11月末までの収益率です。

*ファンドの年間収益率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しております。

*ファンドには、ベンチマークはありません。

- ・ファンドの運用実績はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。
- ・ファンドの運用状況は別途、委託会社のホームページで開示している場合があります。

[前へ](#)

第2【管理及び運営】

3 資産管理等の概要

下線部は訂正部分を示します。

<訂正前>

(1)資産の評価

(以下略)

基準価額は、便宜上1万口あたりに換算した価額で表示されます。原則として委託会社の各営業日に計算され、翌日の日本経済新聞に掲載されます。また、お申込みの各販売会社または下記の照会先まで問い合わせることにより知ることができます。

大和住銀投信投資顧問株式会社

<インターネットホームページ> <http://www.daiwasbi.co.jp/>

<お電話によるお問い合わせ先> 受付窓口：（電話番号）0120-286104

受付時間：午前9時から午後5時まで（土、日、祝日除く。）

(以下略)

(5)その他

(以下略)

運用にかかる報告等開示方法

(以下略)

八．委託会社は、交付運用報告書を販売会社を通じて受益者へ交付します。また、委託会社は、運用報告書（全体版）を委託会社のインターネットホームページに掲載します。

<インターネットホームページ> <http://www.daiwasbi.co.jp/>

二．前八．にかかわらず、受益者から運用報告書（全体版）の交付の請求があった場合には、これを交付します。

(以下略)

<訂正後>

(1)資産の評価

(以下略)

基準価額は、便宜上1万口あたりに換算した価額で表示されます。原則として委託会社の各営業日に計算され、翌日の日本経済新聞に掲載されます。また、お申込みの各販売会社または下記の照会先まで問い合わせることにより知ることができます。

大和住銀投信投資顧問株式会社

<インターネットホームページ> <https://www.daiwasbi.co.jp/>

<お電話によるお問い合わせ先> 受付窓口：（電話番号）0120-286104

受付時間：午前9時から午後5時まで（土、日、祝日除く。）

(以下略)

(5)その他

(以下略)

運用にかかる報告等開示方法

(以下略)

八．委託会社は、交付運用報告書を販売会社を通じて受益者へ交付します。また、委託会社は、運用報告書（全体版）を委託会社のインターネットホームページに掲載します。

<インターネットホームページ> <https://www.daiwasbi.co.jp/>

二．前八．にかかわらず、受益者から運用報告書（全体版）の交付の請求があった場合には、これを交付します。

(以下略)

第3【ファンドの経理状況】

原届出書の内容は下記事項の内容に訂正されます。

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)に基づいて作成しております。
なお、財務諸表に記載されている金額は、円単位で表示しております。
2. 当ファンドの計算期間は6ヵ月未満であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。
3. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当特定期間(平成30年5月22日から平成30年11月21日まで)の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による監査を受けております。

[次へ](#)

1 財務諸表

Y M ・ ジャパン ・ イノベーション ・ オープン

(1) 貸借対照表

区分	前期 平成30年5月21日現在 金額（円）	当期 平成30年11月21日現在 金額（円）
資産の部		
流動資産		
親投資信託受益証券	1,187,991,772	907,037,947
未収入金	3,815,691	-
流動資産合計	1,191,807,463	907,037,947
資産合計	1,191,807,463	907,037,947
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	45,261,291	-
未払解約金	3,815,691	-
未払受託者報酬	124,507	105,219
未払委託者報酬	4,358,650	3,683,349
その他未払費用	60,561	49,509
流動負債合計	53,620,700	3,838,077
負債合計	53,620,700	3,838,077
純資産の部		
元本等		
元本	1,131,532,277	1,020,864,631
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	6,654,486	117,664,761
（分配準備積立金）	11,867,244	12,820,806
元本等合計	1,138,186,763	903,199,870
純資産合計	1,138,186,763	903,199,870
負債純資産合計	1,191,807,463	907,037,947

(2) 損益及び剰余金計算書

区分	前期 自 平成29年11月22日 至 平成30年5月21日 金額（円）	当期 自 平成30年5月22日 至 平成30年11月21日 金額（円）
営業収益		
有価証券売買等損益	35,819,432	121,150,995
営業収益合計	35,819,432	121,150,995
営業費用		
受託者報酬	269,536	220,430
委託者報酬	9,435,326	7,716,466
その他費用	60,561	49,509
営業費用合計	9,765,423	7,986,405
営業利益又は営業損失（ ）	26,054,009	129,137,400

経常利益又は経常損失()	26,054,009	129,137,400
当期純利益又は当期純損失()	26,054,009	129,137,400
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()	1,267,678	3,409,023
期首剰余金又は期首欠損金()	53,320,338	6,654,486
剰余金増加額又は欠損金減少額	1,677,118	1,409,130
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	1,356,197
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	1,677,118	52,933
剰余金減少額又は欠損金増加額	3,050,364	-
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	3,050,364	-
分配金	70,078,937	-
期末剰余金又は期末欠損金()	6,654,486	117,664,761

[次へ](#)

(3) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	当期
	自 平成30年 5月22日 至 平成30年11月21日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、基準価額で評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	前期	当期
	平成30年 5月21日現在	平成30年11月21日現在
1. 元本状況		
期首元本額	1,269,928,134円	1,131,532,277円
期中追加設定元本額	39,957,919円	11,008,026円
期中一部解約元本額	178,353,776円	121,675,672円
2. 受益権の総数	1,131,532,277口	1,020,864,631口
3. 元本の欠損	-	117,664,761円

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

前期	当期																																
自 平成29年11月22日 至 平成30年 5月21日	自 平成30年 5月22日 至 平成30年11月21日																																
<p>分配金の計算過程</p> <p>第11期計算期間末（平成30年 2月21日）に、投資信託約款に基づき計算した60,217,135円（1万口当たり485.28円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い24,817,646円（1万口当たり200円）を分配しております。</p> <table border="1"> <tr><td>配当等収益 （費用控除後）</td><td>0円</td></tr> <tr><td>有価証券売買等損益 （費用控除後）</td><td>0円</td></tr> <tr><td>収益調整金</td><td>2,124,442円</td></tr> <tr><td>分配準備積立金</td><td>58,092,693円</td></tr> <tr><td>分配可能額</td><td>60,217,135円</td></tr> <tr><td>（1万口当たり分配可能額）</td><td>(485.28円)</td></tr> <tr><td>収益分配金</td><td>24,817,646円</td></tr> <tr><td>（1万口当たり収益分配金）</td><td>(200円)</td></tr> </table> <p>第12期計算期間末（平成30年 5月21日）に、投資信託約款に基づき計算した59,212,317円（1万口当たり523.29円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い45,261,291円（1万口当たり400円）を分配しております。</p> <table border="1"> <tr><td>配当等収益 （費用控除後）</td><td>7,472,428円</td></tr> <tr><td>有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）</td><td>19,459,261円</td></tr> <tr><td>収益調整金</td><td>2,083,782円</td></tr> <tr><td>分配準備積立金</td><td>30,196,846円</td></tr> <tr><td>分配可能額</td><td>59,212,317円</td></tr> <tr><td>（1万口当たり分配可能額）</td><td>(523.29円)</td></tr> <tr><td>収益分配金</td><td>45,261,291円</td></tr> <tr><td>（1万口当たり収益分配金）</td><td>(400円)</td></tr> </table>	配当等収益 （費用控除後）	0円	有価証券売買等損益 （費用控除後）	0円	収益調整金	2,124,442円	分配準備積立金	58,092,693円	分配可能額	60,217,135円	（1万口当たり分配可能額）	(485.28円)	収益分配金	24,817,646円	（1万口当たり収益分配金）	(200円)	配当等収益 （費用控除後）	7,472,428円	有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）	19,459,261円	収益調整金	2,083,782円	分配準備積立金	30,196,846円	分配可能額	59,212,317円	（1万口当たり分配可能額）	(523.29円)	収益分配金	45,261,291円	（1万口当たり収益分配金）	(400円)	<p>分配金の計算過程</p> <p>第13期計算期間末（平成30年 8月21日）に、分配した金額はありません。</p> <p>第14期計算期間末（平成30年11月21日）に、分配した金額はありません。</p>
配当等収益 （費用控除後）	0円																																
有価証券売買等損益 （費用控除後）	0円																																
収益調整金	2,124,442円																																
分配準備積立金	58,092,693円																																
分配可能額	60,217,135円																																
（1万口当たり分配可能額）	(485.28円)																																
収益分配金	24,817,646円																																
（1万口当たり収益分配金）	(200円)																																
配当等収益 （費用控除後）	7,472,428円																																
有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）	19,459,261円																																
収益調整金	2,083,782円																																
分配準備積立金	30,196,846円																																
分配可能額	59,212,317円																																
（1万口当たり分配可能額）	(523.29円)																																
収益分配金	45,261,291円																																
（1万口当たり収益分配金）	(400円)																																

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

項目	当期
	自 平成30年 5月22日 至 平成30年11月21日

1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有している金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務であります。なお、当ファンドは親投資信託受益証券を通じて有価証券に投資し、また、デリバティブ取引を行っております。これらの金融商品に係るリスクは、価格変動リスク、信用リスク及び流動性リスクであります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	委託会社のファンドの運用におけるリスク管理については、運用部門から独立した組織体制で行っております。運用管理委員会（代表取締役社長を委員長とします。）は、ファンドの運用状況を総合的に分析・評価するとともに、運用リスク管理の強化・改善に向けた方策を討議・決定しております。また、リスク管理部運用審査室は、ファンドのパフォーマンス分析・評価並びにリスク分析を行い、運用部門に開示するとともに、運用管理委員会を通じて、運用リスクの軽減に向けた提言を行っております。
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。

金融商品の時価等に関する事項

項目	当期
	平成30年11月21日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありませぬ。
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

前期（平成30年5月21日現在）

種類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
親投資信託受益証券	52,602,228
合計	52,602,228

当期（平成30年11月21日現在）

種類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
親投資信託受益証券	38,494,002
合計	38,494,002

（デリバティブ取引等関係に関する注記）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前期（平成30年5月21日現在）

該当事項はありません。

当期（平成30年11月21日現在）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

当期（自平成30年5月22日至平成30年11月21日）

該当事項はありません。

（1口当たり情報）

前期 平成30年5月21日現在	当期 平成30年11月21日現在
1口当たり純資産額 1.0059円 「1口 = 1円（10,000口 = 10,059円）」	1口当たり純資産額 0.8847円 「1口 = 1円（10,000口 = 8,847円）」

（4）附属明細表

有価証券明細表

<株式以外の有価証券>

通貨	種類	銘柄	口数	評価額	備考
円	親投資信託 受益証券	ジャパン・イノベーション マザーファンド	618,385,366	753,997,276	
	親投資信託 受益証券	山口・地方創生マザーファンド	137,998,802	153,040,671	

合計	2 銘柄	756,384,168	907,037,947	
----	------	-------------	-------------	--

[前へ](#) [次へ](#)

<参考>

当ファンドは、「ジャパン・イノベーションマザーファンド」及び「山口・地方創生マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」はすべて同マザーファンドの受益証券であります。

以下に記載した情報は監査の対象外であります。

ジャパン・イノベーションマザーファンド

(1) 貸借対照表

区分	第6期 平成30年5月21日現在 金額(円)	第7期 平成30年11月21日現在 金額(円)
資産の部		
流動資産		
金銭信託	-	78,228,946
コール・ローン	151,355,777	9,752,496
株式	822,242,590	659,025,500
派生商品評価勘定	6,174,759	-
未収入金	4,702,518	-
未収配当金	6,958,580	4,825,690
前払金	-	2,700,000
差入委託証拠金	2,790,000	2,625,000
流動資産合計	994,224,224	757,157,632
資産合計	994,224,224	757,157,632
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	-	3,153,961
前受金	6,360,000	-
未払解約金	3,052,553	-
その他未払費用	1,220	1,978
流動負債合計	9,413,773	3,155,939
負債合計	9,413,773	3,155,939
純資産の部		
元本等		
元本	714,224,691	618,385,366
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	270,585,760	135,616,327
元本等合計	984,810,451	754,001,693
純資産合計	984,810,451	754,001,693
負債純資産合計	994,224,224	757,157,632

[前へ](#) [次へ](#)

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	第7期	
	自 平成30年 5月22日	至 平成30年11月21日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>株式 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、原則として金融商品取引所における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は金融商品取引業者等の提示する気配相場に基づいて評価しております。</p> <p>また、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的事由をもって時価と認められた価額もしくは受託会社と協議のうえ両者が合理的事由をもって時価と認められた価額で評価しております。</p>	
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	個別法に基づき原則として時価で評価しております。	
3. 収益及び費用の計上基準	<p>(1) 受取配当金 国内株式についての受取配当金は、原則として、株式の配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。</p> <p>(2) 有価証券売買等損益及び派生商品取引等損益 約定日基準で計上しております。</p>	

(貸借対照表に関する注記)

項目	第6期		第7期	
	平成30年 5月21日現在		平成30年11月21日現在	
1. 元本状況				
期首元本額		905,042,768円		714,224,691円
期中追加設定元本額		24,875,291円		6,439,673円
期中一部解約元本額		215,693,368円		102,278,998円
元本の内訳				
Y M・ジャパン・イノベーション・オープン		714,224,691円		618,385,366円
合計		714,224,691円		618,385,366円
2. 受益権の総数		714,224,691口		618,385,366口

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

項目	第7期	
	自 平成30年 5月22日	至 平成30年11月21日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。	
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有している金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、金銭債権及び金銭債務であります。これらの金融商品に係るリスクは、価格変動リスク、信用リスク及び流動性リスクであります。	
3. 金融商品に係るリスク管理体制	委託会社のファンドの運用におけるリスク管理については、運用部門から独立した組織体制で行っております。運用管理委員会（代表取締役社長を委員長とします。）は、ファンドの運用状況を総合的に分析・評価するとともに、運用リスク管理の強化・改善に向けた方策を討議・決定しております。また、リスク管理部運用審査室は、ファンドのパフォーマンス分析・評価並びにリスク分析を行い、運用部門に開示するとともに、運用管理委員会を通じて、運用リスクの軽減に向けた提言を行っております。	
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。	

金融商品の時価等に関する事項

項目	第7期	
	平成30年11月21日現在	

1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)デリバティブ取引 デリバティブ取引等関係に関する注記に記載しております。 (3)金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

第6期（平成30年5月21日現在）

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
株 式	26,424,795
合計	26,424,795

第7期（平成30年11月21日現在）

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
株 式	71,900,654
合計	71,900,654

(デリバティブ取引等関係に関する注記)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(株式関連)

区分	種類	第6期 平成30年5月21日現在			
		契約額等 (円)	うち 1年超 (円)	時価(円)	評価損益(円)
市場取引	株価指数先物取引 買建 T O P I X	102,665,241	-	108,840,000	6,174,759
	合計	-	-	108,840,000	6,174,759

区分	種類	第7期 平成30年11月21日現在			
		契約額等 (円)	うち 1年超 (円)	時価(円)	評価損益(円)
市場取引	株価指数先物取引 買建 T O P I X	83,828,961	-	80,675,000	3,153,961
	合計	-	-	80,675,000	3,153,961

(注)時価の算定方法

- 1) 先物取引の残高表示は、契約額によっております。
- 2) 期末の評価においては、取引所の発表する計算日の清算値段等を用いております。

(関連当事者との取引に関する注記)

第7期（自平成30年5月22日 至平成30年11月21日）

該当事項はありません。

(1口当たり情報)

第6期 平成30年5月21日現在	第7期 平成30年11月21日現在
1口当たり純資産額 1.3789円 「1口 = 1円(10,000口 = 13,789円)」	1口当たり純資産額 1.2193円 「1口 = 1円(10,000口 = 12,193円)」

(3)附属明細表

有価証券明細表

<株式>

通貨	銘柄	株式数 (株)	評価額		備考
			単価	金額	
円	熊谷組	1,800	3,320.00	5,976,000	

大和ハウス工業	2,500	3,436.00	8,590,000
日揮	1,400	1,700.00	2,380,000
寿スピリッツ	600	4,345.00	2,607,000
ヤクルト本社	800	8,220.00	6,576,000
アサヒグループホールディングス	700	4,853.00	3,397,100
エスビー食品	100	9,370.00	937,000
ハウス食品グループ本社	900	3,815.00	3,433,500
カゴメ	300	3,235.00	970,500
東レ	8,400	902.90	7,584,360
昭和電工	1,500	4,380.00	6,570,000
住友化学	12,000	591.00	7,092,000
信越化学工業	1,800	9,844.00	17,719,200
KHネオケム	3,600	3,295.00	11,862,000
住友ベークライト	2,400	3,855.00	9,252,000
扶桑化学工業	300	2,280.00	684,000
トリケミカル研究所	400	4,250.00	1,700,000
富士フイルムホールディングス	1,800	4,399.00	7,918,200
コーセー	400	17,810.00	7,124,000
協和発酵キリン	2,800	2,230.00	6,244,000
塩野義製薬	600	7,626.00	4,575,600
日本新薬	800	7,380.00	5,904,000
中外製薬	1,100	7,090.00	7,799,000
A G C	700	3,810.00	2,667,000
日本特殊陶業	1,500	2,358.00	3,537,000
フジインコーポレーテッド	2,200	2,385.00	5,247,000
山陽特殊製鋼	1,200	2,619.00	3,142,800
三井金属鉱業	200	2,373.00	474,600
古河電気工業	800	3,165.00	2,532,000
三益半導体工業	800	1,501.00	1,200,800
F U J I	2,100	1,468.00	3,082,800
ディスコ	400	16,920.00	6,768,000
ヤマシンフィルタ	3,400	888.00	3,019,200
S M C	400	37,900.00	15,160,000
技研製作所	1,200	3,885.00	4,662,000
小松製作所	1,600	2,873.00	4,596,800
日立建機	1,000	2,995.00	2,995,000
ダイフク	600	5,510.00	3,306,000
C K D	2,900	1,060.00	3,074,000
日本精工	1,300	1,048.00	1,362,400
T H K	2,200	2,463.00	5,418,600
I H I	1,100	3,640.00	4,004,000
日立製作所	1,800	3,260.00	5,868,000
安川電機	600	3,275.00	1,965,000
日本電産	1,500	13,805.00	20,707,500
ヤーマン	1,800	2,034.00	3,661,200
M C J	10,800	749.00	8,089,200
ソニー	3,700	5,686.00	21,038,200
T D K	600	8,780.00	5,268,000
アルプス電気	1,800	2,490.00	4,482,000
メイコー	1,900	1,783.00	3,387,700
堀場製作所	400	5,100.00	2,040,000
アドバンテスト	2,500	2,248.00	5,620,000
エスベック	1,000	1,920.00	1,920,000
キーエンス	300	61,580.00	18,474,000
コーセル	1,200	1,085.00	1,302,000
レーザーテック	400	3,370.00	1,348,000
ローム	1,100	7,690.00	8,459,000
村田製作所	700	16,040.00	11,228,000
S C R E E Nホールディングス	300	5,650.00	1,695,000
東京エレクトロン	500	15,355.00	7,677,500
川崎重工業	1,100	2,616.00	2,877,600
日野自動車	2,900	1,060.00	3,074,000
三菱自動車工業	9,700	673.00	6,528,100
本田技研工業	900	3,146.00	2,831,400
スズキ	800	5,275.00	4,220,000
S U B A R U	1,300	2,581.50	3,355,950
ヤマハ発動機	2,000	2,259.00	4,518,000
バイ・テクノロジー	200	16,450.00	3,290,000
東京精密	900	3,405.00	3,064,500
H O Y A	1,100	6,783.00	7,461,300

朝日インテック	1,200	5,150.00	6,180,000
ニプロ	1,700	1,551.00	2,636,700
ビジョン	2,100	4,785.00	10,048,500
任天堂	400	31,020.00	12,408,000
九州旅客鉄道	500	3,565.00	1,782,500
ANAホールディングス	1,800	4,050.00	7,290,000
システナ	1,000	1,264.00	1,264,000
新日鉄住金ソリューションズ	2,800	3,155.00	8,834,000
ラクス	1,500	1,866.00	2,799,000
クレスコ	400	3,655.00	1,462,000
トレンドマイクロ	300	6,190.00	1,857,000
大塚商会	700	3,775.00	2,642,500
ビジョン	2,900	4,375.00	12,687,500
日本電信電話	4,700	4,620.00	21,714,000
NTTドコモ	1,700	2,582.00	4,389,400
エヌ・ティ・ティ・データ	5,200	1,270.00	6,604,000
スクウェア・エニックス・ホールディングス	1,000	3,260.00	3,260,000
SCSK	2,200	4,355.00	9,581,000
コナミホールディングス	800	4,870.00	3,896,000
ソフトバンクグループ	800	8,865.00	7,092,000
双日	5,200	392.00	2,038,400
神戸物産	2,400	3,230.00	7,752,000
シークス	2,700	1,695.00	4,576,500
兼松	3,000	1,460.00	4,380,000
日立ハイテクノロジーズ	1,100	4,050.00	4,455,000
三菱商事	4,700	2,985.50	14,031,850
MonotaRO	1,000	2,570.00	2,570,000
コスモス薬品	100	21,590.00	2,159,000
ゼンショーホールディングス	800	2,728.00	2,182,400
丸井グループ	3,300	2,349.00	7,751,700
ファーストリテイリング	100	57,450.00	5,745,000
三菱UFJフィナンシャル・グループ	16,800	635.80	10,681,440
三井住友トラスト・ホールディングス	1,300	4,476.00	5,818,800
かんぽ生命保険	1,700	2,794.00	4,749,800
MS&ADインシュアランスグループホールディングス	1,900	3,415.00	6,488,500
第一生命ホールディングス	2,400	1,976.00	4,742,400
東京海上ホールディングス	1,300	5,479.00	7,122,700
T&Dホールディングス	2,500	1,636.50	4,091,250
オリックス	2,200	1,777.50	3,910,500
三井不動産	3,700	2,691.50	9,958,550
ルネサンス	1,500	2,227.00	3,340,500
アウトソーシング	1,300	1,225.00	1,592,500
エン・ジャパン	900	3,920.00	3,528,000
日本郵政	8,100	1,371.00	11,105,100
ジャパンエレベーターサービスホールディングス	900	2,121.00	1,908,900
共立メンテナンス	1,000	5,320.00	5,320,000
合計 117銘柄	232,000	-	659,025,500

デリバティブ取引の契約額等及び時価の状況表

注記表中の(デリバティブ取引等関係に関する注記)に記載しており、ここでは省略しております。

[前へ](#) [次へ](#)

山口・地方創生マザーファンド

(1) 貸借対照表

区分	第6期 平成30年5月21日現在 金額（円）	第7期 平成30年11月21日現在 金額（円）
資産の部		
流動資産		
金銭信託	-	16,050,239
コール・ローン	47,233,231	2,000,920
株式	153,404,250	133,577,350
派生商品評価勘定	2,048,174	-
未収入金	1,039,928	-
未収配当金	1,370,700	984,150
前払金	-	545,000
差入委託証拠金	930,000	525,000
流動資産合計	206,026,283	153,682,659
資産合計	206,026,283	153,682,659
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	-	635,793
前受金	2,110,000	-
未払解約金	763,138	-
その他未払費用	424	395
流動負債合計	2,873,562	636,188
負債合計	2,873,562	636,188
純資産の部		
元本等		
元本	165,187,304	137,998,802
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	37,965,417	15,047,669
元本等合計	203,152,721	153,046,471
純資産合計	203,152,721	153,046,471
負債純資産合計	206,026,283	153,682,659

[前へ](#) [次へ](#)

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	第7期	
	自 平成30年5月22日	至 平成30年11月21日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>株式 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、原則として金融商品取引所における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は金融商品取引業者等の提示する気配相場に基づいて評価しております。</p> <p>また、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的事由をもって時価と認められた価額もしくは受託会社と協議のうえ両者が合理的事由をもって時価と認められた価額で評価しております。</p>	
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	個別法に基づき原則として時価で評価しております。	
3. 収益及び費用の計上基準	<p>(1) 受取配当金 国内株式についての受取配当金は、原則として、株式の配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。</p> <p>(2) 有価証券売買等損益及び派生商品取引等損益 約定日基準で計上しております。</p>	

(貸借対照表に関する注記)

項目	第6期		第7期	
	平成30年5月21日現在		平成30年11月21日現在	
1. 元本状況				
期首元本額		217,653,549円		165,187,304円
期中追加設定元本額		6,833,464円		1,803,862円
期中一部解約元本額		59,299,709円		28,992,364円
元本の内訳				
Y M・ジャパン・イノベーション・オープン		165,187,304円		137,998,802円
合計		165,187,304円		137,998,802円
2. 受益権の総数		165,187,304口		137,998,802口

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

項目	第7期	
	自 平成30年5月22日	至 平成30年11月21日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。	
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有している金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、金銭債権及び金銭債務であります。これらの金融商品に係るリスクは、価格変動リスク、信用リスク及び流動性リスクであります。	
3. 金融商品に係るリスク管理体制	委託会社のファンドの運用におけるリスク管理については、運用部門から独立した組織体制で行っております。運用管理委員会（代表取締役社長を委員長とします。）は、ファンドの運用状況を総合的に分析・評価するとともに、運用リスク管理の強化・改善に向けた方策を討議・決定しております。また、リスク管理部運用審査室は、ファンドのパフォーマンス分析・評価並びにリスク分析を行い、運用部門に開示するとともに、運用管理委員会を通じて、運用リスクの軽減に向けた提言を行っております。	
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。	

金融商品の時価等に関する事項

項目	第7期	
	平成30年11月21日現在	

1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)デリバティブ取引 デリバティブ取引等関係に関する注記に記載しております。 (3)金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

第6期(平成30年5月21日現在)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額(円)
株 式	368,813
合計	368,813

第7期(平成30年11月21日現在)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額(円)
株 式	15,235,361
合計	15,235,361

(デリバティブ取引等関係に関する注記)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(株式関連)

区分	種類	第6期 平成30年5月21日現在			
		契約額等 (円)	うち 1年超 (円)	時価(円)	評価損益(円)
市場取引	株価指数先物取引 買建 T O P I X	34,231,826	-	36,280,000	2,048,174
合計		-	-	36,280,000	2,048,174

区分	種類	第7期 平成30年11月21日現在			
		契約額等 (円)	うち 1年超 (円)	時価(円)	評価損益(円)
市場取引	株価指数先物取引 買建 T O P I X	16,770,793	-	16,135,000	635,793
合計		-	-	16,135,000	635,793

(注)時価の算定方法

- 1)先物取引の残高表示は、契約額によっております。
- 2)期末の評価においては、取引所の発表する計算日の清算値段等を用いております。

(関連当事者との取引に関する注記)

第7期(自平成30年5月22日至平成30年11月21日)

該当事項はありません。

(1口当たり情報)

第6期 平成30年5月21日現在	第7期 平成30年11月21日現在
1口当たり純資産額 1.2298円 「1口=1円(10,000口=12,298円)」	1口当たり純資産額 1.1090円 「1口=1円(10,000口=11,090円)」

(3)附属明細表

有価証券明細表

<株式>

通貨	銘柄	株式数 (株)	評価額		備考
			単価	金額	
円	日本水産	5,300	701.00	3,715,300	

五洋建設	6,500	657.00	4,270,500
積水ハウス	1,100	1,676.50	1,844,150
中電工	700	2,419.00	1,693,300
九電工	600	4,270.00	2,562,000
明治ホールディングス	200	8,970.00	1,794,000
雪印メグミルク	600	3,085.00	1,851,000
アサヒグループホールディングス	1,100	4,853.00	5,338,300
ニチレイ	1,400	3,175.00	4,445,000
日本たばこ産業	1,200	2,816.00	3,379,200
レンゴー	4,500	919.00	4,135,500
日産化学	1,100	5,760.00	6,336,000
東ソー	2,300	1,624.00	3,735,200
トクヤマ	700	2,749.00	1,924,300
エア・ウォーター	300	1,787.00	536,100
三井化学	1,400	2,906.00	4,068,400
ダイセル	1,400	1,283.00	1,796,200
日本ゼオン	2,400	1,082.00	2,596,800
宇部興産	1,400	2,593.00	3,630,200
ダイキョーニシカワ	400	987.00	394,800
協和発酵キリン	1,500	2,230.00	3,345,000
武田薬品工業	600	4,319.00	2,591,400
ブリヂストン	300	4,345.00	1,303,500
三井金属鉱業	600	2,373.00	1,423,800
リョービ	300	2,938.00	881,400
ディスコ	200	16,920.00	3,384,000
北川鉄工所	600	2,536.00	1,521,600
ダイキン工業	100	11,555.00	1,155,500
日立造船	1,900	383.00	727,700
三菱電機	400	1,419.50	567,800
ルネサスエレクトロニクス	500	555.00	277,500
パナソニック	400	1,102.50	441,000
スタンレー電気	800	3,265.00	2,612,000
豊田自動織機	700	5,630.00	3,941,000
マツダ	500	1,163.00	581,500
テルモ	600	6,254.00	3,752,400
フジシールインターナショナル	1,200	3,560.00	4,272,000
中国電力	600	1,436.00	861,600
九州電力	1,500	1,349.00	2,023,500
西日本旅客鉄道	600	7,929.00	4,757,400
西武ホールディングス	2,800	2,147.00	6,011,600
西日本鉄道	1,100	2,896.00	3,185,600
九州旅客鉄道	1,200	3,565.00	4,278,000
横浜冷凍	1,500	946.00	1,419,000
エディオン	4,600	1,170.00	5,382,000
ツルハホールディングス	400	11,140.00	4,456,000
リテールパートナーズ	700	1,369.00	958,300
イズミ	600	6,510.00	3,906,000
山口フィナンシャルグループ	3,000	1,171.00	3,513,000
合計 49銘柄	64,400	-	133,577,350

デリバティブ取引の契約額等及び時価の状況表

注記表中の(デリバティブ取引等関係に関する注記)で記載しており、ここでは省略しております。

[前へ](#) [次へ](#)

2 ファンドの現況

純資産額計算書

(平成30年11月末現在)

YM・ジャパン・イノベーション・オープン

資産総額	931,977,416 円
負債総額	352,369 円
純資産総額(-)	931,625,047 円
発行済数量	1,019,645,424 口
1単位当り純資産額(/)	0.9137 円

(参考) ジャパン・イノベーションマザーファンド

資産総額	776,280,477 円
負債総額	432,126 円
純資産総額(-)	775,848,351 円
発行済数量	615,164,906 口
1単位当り純資産額(/)	1.2612 円

(参考) 山口・地方創生マザーファンド

資産総額	156,228,302 円
負債総額	91,427 円
純資産総額(-)	156,136,875 円
発行済数量	137,113,759 口
1単位当り純資産額(/)	1.1387 円

[前へ](#)

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

原届出書の内容は下記事項の内容に訂正されます。

1 委託会社等の概況

(1) 資本金の額

資本金の額：20億円（2018年11月末現在）

会社が発行する株式総数：12,800,000株

発行済株式総数：3,850,000株

最近5年間における主な資本金の額の増減：該当事項はありません。

(2) 会社の機構

会社は、10名以内で構成される取締役により運営されます。取締役は、株主総会の決議によって選任されます。取締役の選任は、議決権を行使することができる総株主の議決権の3分の2以上を有する株主が出席し、議決権を行使することができる総株主の議決権の3分の2以上をもってこれを行います。

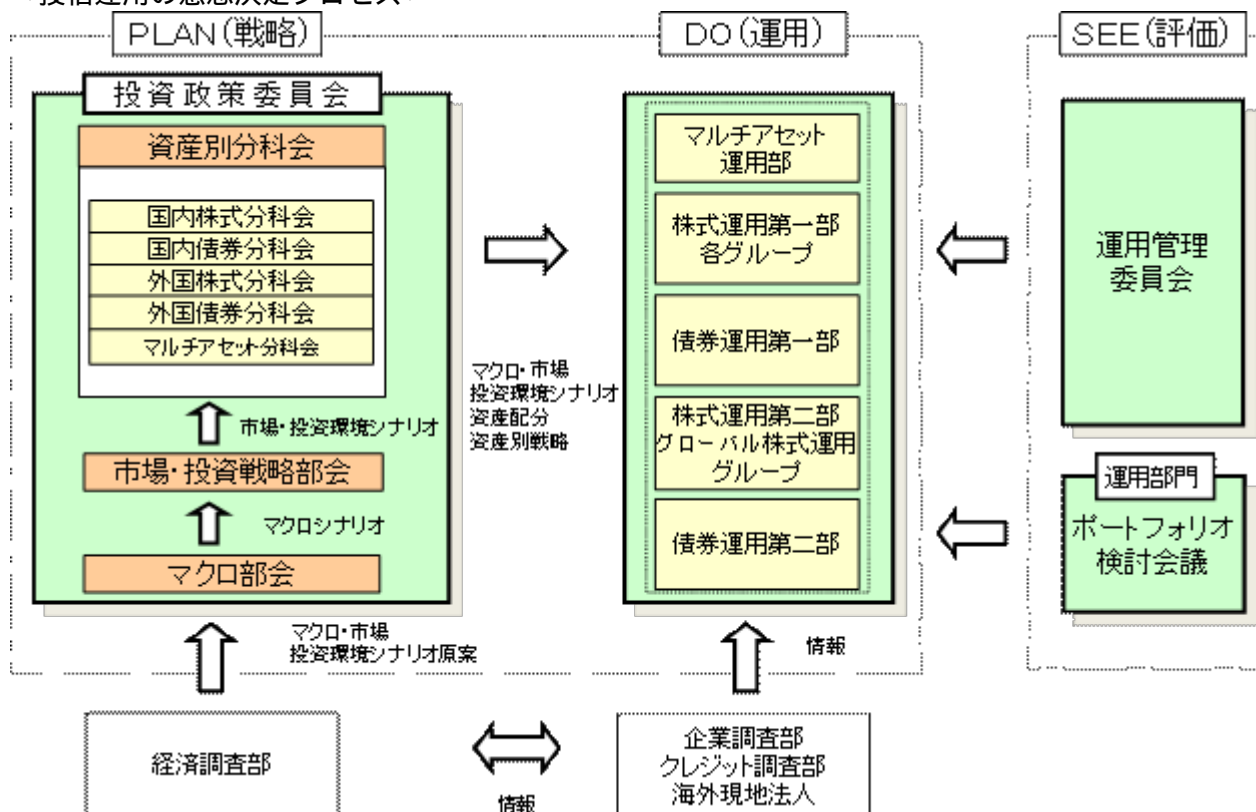
取締役の任期は、選任後1年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとします。補欠として選任された取締役の任期は、前任取締役の任期の満了する時までとします。

取締役会は、取締役会の決議によって取締役の中から取締役社長、取締役副社長各1名、専務取締役および常務取締役若干名を選定することができます。また代表取締役は2名とし、取締役社長および取締役副社長がこれに就任します。ただし、取締役副社長を置かない場合、専務取締役から代表取締役1名を選定することができます。

取締役会は、法令に別段の定めがある場合を除き、代表取締役が招集し、招集通知は3日前までにこれを発します。ただし、緊急の必要があるときは、この期間を短縮することができます。

取締役会は、法令または定款に定める事項の他、業務執行に関する重要事項を決定します。その決議は、取締役の3分の2以上が出席し、その8分の5以上をもって行います。

< 投信運用の意思決定プロセス >



2 事業の内容及び営業の概況

委託会社は、株式会社住友銀行（現株式会社三井住友フィナンシャルグループ）および大和証券株式会社（現株式会社大和証券グループ本社）の戦略的提携により1999年4月1日付で、大和投資顧問株式会社

と住銀投資顧問株式会社およびエス・ビー・アイ・エム投信株式会社の三社が合併して設立された会社です。

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また、「金融商品取引法」に定める投資助言業務を行っています。

2018年11月末現在、委託会社が運用の指図を行っている投資信託の総ファンド数は、397本であり、その純資産総額は、約3,350,309百万円です（なお、親投資信託120本は、ファンド数及び純資産総額からは除いております。）。

種類	ファンド数	純資産総額
単位型株式投資信託	21	61,304百万円
追加型株式投資信託	301	3,026,181百万円
単位型公社債投資信託	75	262,823百万円
合計	397	3,350,309百万円

[次へ](#)

3 委託会社等の経理状況

- 1 . 委託会社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。）並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号。）により作成しております。
また、委託会社の間接財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号。）並びに同規則第38条及び第57条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号。）により作成しております。
- 2 . 財務諸表及び中間財務諸表の記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。
- 3 . 委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第46期事業年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）の財務諸表及び、第47期中間会計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）の中間財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による監査を受けております。

[次へ](#)

(1) 貸借対照表

(単位：千円)

		第45期 (平成29年3月31日)	第46期 (平成30年3月31日)
資産の部			
流動資産			
現金・預金		21,770,643	21,360,895
前払費用		206,930	204,460
未収入金		7,453	12,823
未収委託者報酬		3,291,565	3,363,312
未収運用受託報酬		912,489	1,198,432
未収収益		50,722	41,310
繰延税金資産		447,651	504,497
その他		428	7,553
流動資産計		26,687,885	26,693,285
固定資産			
有形固定資産			
建物	1	110,298	75,557
器具備品	1	66,464	122,169
土地		710	710
リース資産	1	10,562	7,275
有形固定資産計		188,035	205,712
無形固定資産			
ソフトウェア		96,732	73,887
電話加入権		12,706	12,706
無形固定資産計		109,439	86,593
投資その他の資産			
投資有価証券		6,783,747	10,257,600
関係会社株式		956,115	956,115
従業員長期貸付金		1,546	1,170
長期差入保証金		511,637	534,699
出資金		82,660	82,660
繰延税金資産		523,217	536,754
その他		192	-
貸倒引当金		20,750	20,750
投資その他の資産計		8,838,366	12,348,249
固定資産計		9,135,840	12,640,555

資産合計	35,823,726	39,333,840
------	------------	------------

(単位：千円)

	第45期 (平成29年3月31日)	第46期 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
リース債務	3,524	3,143
未払金	61,012	29,207
未払手数料	1,419,878	1,434,393
未払費用	1,150,008	1,287,722
未払法人税等	459,723	1,397,293
未払消費税等	26,700	135,042
賞与引当金	1,251,100	1,263,100
役員賞与引当金	82,900	85,600
その他	46,283	23,128
流動負債計	4,501,131	5,658,632
固定負債		
リース債務	7,841	4,698
退職給付引当金	1,482,500	1,540,203
役員退職慰労引当金	93,560	88,050
固定負債計	1,583,902	1,632,952
負債合計	6,085,034	7,291,585

(単位：千円)

	第45期 (平成29年3月31日)	第46期 (平成30年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金		
資本準備金	156,268	156,268
資本剰余金合計	156,268	156,268
利益剰余金		
利益準備金	343,731	343,731

その他利益剰余金		
別途積立金	1,100,000	1,100,000
繰越利益剰余金	26,100,773	28,387,042
利益剰余金合計	27,544,504	29,830,773
株主資本合計	29,700,773	31,987,042
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	37,917	55,213
評価・換算差額等合計	37,917	55,213
純資産合計	29,738,691	32,042,255
負債純資産合計	35,823,726	39,333,840

(2) 損益計算書

(単位：千円)

	第45期 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	第46期 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
営業収益		
運用受託報酬	4,371,647	5,111,757
委託者報酬	28,124,470	26,383,145
その他営業収益	64,558	82,997
営業収益計	32,560,677	31,577,899
営業費用		
支払手数料	13,056,474	11,900,832
広告宣伝費	169,346	93,131
公告費	2,915	-
調査費		
調査費	1,331,709	1,637,364
委託調査費	3,213,013	2,959,680
委託計算費	137,135	79,120
営業雑経費		
通信費	39,943	42,497
印刷費	501,370	517,371
協会費	24,788	24,374
諸会費	2,492	3,778
その他	109,609	122,930
営業費用計	18,588,799	17,381,079
一般管理費		
給料		
役員報酬	209,010	218,127

給料・手当	2,852,929	2,809,008
賞与	129,064	86,028
退職金	32,873	9,864
福利厚生費	639,080	647,269
交際費	22,638	29,121
旅費交通費	142,966	159,224
租税公課	174,826	199,255
不動産賃借料	620,232	622,807
退職給付費用	217,625	219,724
固定資産減価償却費	57,699	71,624
賞与引当金繰入額	1,251,100	1,263,100
役員退職慰労引当金繰入額	38,169	36,130
役員賞与引当金繰入額	80,300	85,500
諸経費	564,747	901,001
一般管理費計	7,033,264	7,357,787
営業利益	6,938,613	6,839,032
営業外収益		
受取配当金	4,517	23,350
受取利息	675	199
投資有価証券売却益	6,051	6,350
業務委託関連引当金戻入	4,000	-
為替差益	123	-
その他	5,690	2,831
営業外収益計	21,058	32,732
営業外費用		
投資有価証券売却損	21,990	5,000
為替差損	-	1,784
その他	113	0
営業外費用計	22,103	6,784
経常利益	6,937,568	6,864,980
税引前当期純利益	6,937,568	6,864,980
法人税、住民税及び事業税	1,881,549	2,242,775
法人税等調整額	225,697	78,014
法人税等合計	2,107,247	2,164,761
当期純利益	4,830,321	4,700,218

(3) 株主資本等変動計算書

第45期 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金	
					別途積立金	繰越利益剰余金
当期首残高	2,000,000	156,268	156,268	343,731	1,100,000	24,034,752
当期変動額						
剰余金の配当						2,764,300
当期純利益						4,830,321
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						
当期変動額合計	-	-	-	-	-	2,066,021
当期末残高	2,000,000	156,268	156,268	343,731	1,100,000	26,100,773

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	利益剰余金 合計				
当期首残高	25,478,483	27,634,752	27,182	27,182	27,661,934
当期変動額					
剰余金の配当	2,764,300	2,764,300			2,764,300
当期純利益	4,830,321	4,830,321			4,830,321
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			10,735	10,735	10,735
当期変動額合計	2,066,021	2,066,021	10,735	10,735	2,076,757
当期末残高	27,544,504	29,700,773	37,917	37,917	29,738,691

第46期 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金	
					別途積立金	繰越利益剰余金
当期首残高	2,000,000	156,268	156,268	343,731	1,100,000	26,100,773
当期変動額						
剰余金の配当						2,413,950
当期純利益						4,700,218
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						
当期変動額合計	-	-	-	-	-	2,286,268
当期末残高	2,000,000	156,268	156,268	343,731	1,100,000	28,387,042

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	利益剰余金 合計				
当期首残高	27,544,504	29,700,773	37,917	37,917	29,738,691
当期変動額					
剰余金の配当	2,413,950	2,413,950			2,413,950
当期純利益	4,700,218	4,700,218			4,700,218
株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額)			17,295	17,295	17,295
当期変動額合計	2,286,268	2,286,268	17,295	17,295	2,303,564
当期末残高	29,830,773	31,987,042	55,213	55,213	32,042,255

[前へ](#) [次へ](#)

注記事項

重要な会計方針

<p>1. 有価証券の評価基準及び評価方法</p> <p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 総平均法による原価法を採用しております。</p> <p>(2) その他有価証券 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は総平均法により算出し、評価差額は全部純資産直入法により処理しております。）を採用しております。 時価のないもの 総平均法による原価法を採用しております。</p>				
<p>2. 固定資産の減価償却の方法</p> <p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 定率法を採用しております。ただし、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr> <td>建物</td> <td>15～30年</td> </tr> <tr> <td>器具備品</td> <td>4～15年</td> </tr> </table> <p>(2) 無形固定資産（リース資産を除く） 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。</p> <p>(3) リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。</p>	建物	15～30年	器具備品	4～15年
建物	15～30年			
器具備品	4～15年			
<p>3. 引当金の計上基準</p> <p>(1) 貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員賞与の支払に備えるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。</p> <p>(3) 役員賞与引当金 役員賞与の支払に備えるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。</p> <p>(4) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、社内規定に基づく当事業年度末の要支給額を計上しております。 これは、当社の退職金は、将来の昇給等による給付額の変動がなく、貢献度、能力及び実績に応じて、各事業年度ごとに各人別に勤務費用が確定するためです。</p> <p>(5) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支払に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく当事業年度末の要支給額を計上しております。</p>				
<p>4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項</p> <p>消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。</p>				

（貸借対照表関係）

第45期 (平成29年3月31日)	第46期 (平成30年3月31日)
1.有形固定資産の減価償却累計額	1.有形固定資産の減価償却累計額
建物 454,117千円	建物 465,964千円
器具備品 272,531千円	器具備品 266,621千円
リース資産 10,688千円	リース資産 8,719千円
2.保証債務	2.保証債務
被保証者 従業員	-
被保証債務の内容 住宅ローン	
金額 940千円	

(株主資本等変動計算書関係)

第45期(自平成28年4月1日至平成29年3月31日)

1.発行済株式に関する事項

(単位:千株)

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式	3,850	-	-	3,850
合計	3,850	-	-	3,850

2.配当に関する事項

(1)配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年6月23日 定時株主総会	普通株式	2,764,300	718	平成28年3月31日	平成28年6月24日

(2)基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の 原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月23日 定時株主総会	普通 株式	2,413,950	利益 剰余金	627	平成29年3月31日	平成29年6月24日

第46期(自平成29年4月1日至平成30年3月31日)

1.発行済株式に関する事項

(単位:千株)

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式	3,850	-	-	3,850
合計	3,850	-	-	3,850

2.配当に関する事項

(1)配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年6月23日 定時株主総会	普通株式	2,413,950	627	平成29年3月31日	平成29年6月24日

(2)基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の 原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日

平成30年6月22日 定時株主総会	普通 株式	2,348,500	利益 剰余金	610	平成30年3月31日	平成30年6月23日
----------------------	----------	-----------	-----------	-----	------------	------------

(金融商品関係)

1.金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業及び投資助言・代理業などの資産運用事業を行っております。余裕資金は安全で流動性の高い金融資産で運用し、銀行からの借入や社債の発行はありません。

安全性の高い金融商品での短期的な運用の他に、自社ファンドの設定に自己資本を投入しております。

その自己設定投信は、事業推進目的で保有しており、設定、解約又は償還に関しては、社内規定に従っております。

(2)金融商品の内容及びそのリスク

主たる営業債権は、投資運用業等より発生する未収委託者報酬、未収運用受託報酬であります。

これらの債権は、全て1年以内の債権であり、そのほとんどが信託財産の中から支払われるため、回収不能となるリスクは極めて軽微であります。

未収入金は、当社より他社へ出向している従業員給与等であり、1年以内の債権であります。

投資有価証券は、その大半が事業推進目的で設定した投資信託であり、価格変動リスク及び為替変動リスクに晒されております。

未払手数料は、投資信託の販売に係る支払手数料であります。また、未払費用は、投資信託の運用に係る再委託手数料、及び業務委託関連費用であります。

これらの債務は、全て1年以内の債務であります。

(3)金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、社内規定に従って取引先を選定し、担当部門で取引先の状況を定期的にモニタリングし、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、投資有価証券の一部を除いて、資金決済のほとんどを自国通貨で行っているため、為替の変動リスクは極めて限定的であります。

投資有価証券のうち自己設定投信については、その残高及び損益状況等を定期的に経営会議に報告しております。

なお、デリバティブ取引については行っておりません。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、社内規定に従って手元流動性を維持することにより、流動性リスクを管理しております。

2.金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表に含めておりません（注2）を参照ください）。

第45期（平成29年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	21,770,643	21,770,643	-
(2) 未収委託者報酬	3,291,565	3,291,565	-
(3) 未収運用受託報酬	912,489	912,489	-
(4) 未収入金	7,453	7,453	-
(5) 投資有価証券			

その他有価証券	6,732,611	6,732,611	-
資産計	32,714,763	32,714,763	-
(1) 未払手数料	1,419,878	1,419,878	-
(2) 未払費用（*）	891,704	891,704	-
負債計	2,311,583	2,311,583	-

（*）金融商品に該当するものを表示しております。

第46期（平成30年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	21,360,895	21,360,895	-
(2) 未収委託者報酬	3,363,312	3,363,312	-
(3) 未収運用受託報酬	1,198,432	1,198,432	-
(4) 未収入金	12,823	12,823	-
(5) 投資有価証券			
その他有価証券	10,206,465	10,206,465	-
資産計	36,141,929	36,141,929	-
(1) 未払手数料	1,434,393	1,434,393	-
(2) 未払費用（*）	959,074	959,074	-
負債計	2,393,468	2,393,468	-

（*）金融商品に該当するものを表示しております。

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金・預金、(2) 未収委託者報酬、(3) 未収運用受託報酬及び(4) 未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) 投資有価証券

投資信託であり、公表されている基準価額によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負債

(1) 未払手数料、及び(2) 未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（注2）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額

（単位：千円）

区分	第45期（平成29年3月31日）	第46期（平成30年3月31日）
(1) その他有価証券 非上場株式	51,135	51,135
(2) 子会社株式 非上場株式	956,115	956,115
(3) 長期差入保証金	511,637	534,699

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象としておりません。このため、(1) その他有価証券の非上場株式については
2. (5) 投資有価証券には含めておりません。

（注3）金銭債権及び満期がある有価証券の決算日以後の償還予定額

第45期（平成29年3月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超

現金・預金	21,770,643	-	-	-
未収委託者報酬	3,291,565	-	-	-
未収運用受託報酬	912,489	-	-	-
未収入金	7,453	-	-	-
投資有価証券 その他有価証券の うち満期があるもの	-	2,222,381	467,133	-
合計	25,982,151	2,222,381	467,133	-

第46期（平成30年3月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金・預金	21,360,895	-	-	-
未収委託者報酬	3,363,312	-	-	-
未収運用受託報酬	1,198,432	-	-	-
未収入金	12,823	-	-	-
投資有価証券 その他有価証券の うち満期があるもの	1,923,400	373,466	657,576	-
合計	27,858,863	373,466	657,576	-

（有価証券関係）

1. 子会社株式

第45期（平成29年3月31日）

子会社株式（貸借対照表計上額、関係会社株式 956,115千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

第46期（平成30年3月31日）

子会社株式（貸借対照表計上額、関係会社株式 956,115千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

2. その他有価証券

第45期（平成29年3月31日）

（単位：千円）

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
その他 証券投資信託の受益証券	3,882,464	3,705,555	176,909
小計	3,882,464	3,705,555	176,909
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
その他 証券投資信託の受益証券	2,850,146	2,972,404	122,257
小計	2,850,146	2,972,404	122,257
合計	6,732,611	6,677,959	54,652

（注）非上場株式（貸借対照表計上額 51,135千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

第46期（平成30年3月31日）

（単位：千円）

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの その他 証券投資信託の受益証券	2,522,495	2,276,821	245,674
小計	2,522,495	2,276,821	245,674
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの その他 証券投資信託の受益証券	7,683,969	7,850,063	166,093
小計	7,683,969	7,850,063	166,093
合計	10,206,465	10,126,884	79,580

(注) 非上場株式（貸借対照表計上額 51,135千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3. 当事業年度中に売却したその他有価証券

第45期（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：千円）

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
その他	1,105,918	6,051	21,990

第46期（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：千円）

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
その他	398,350	6,350	5,000

（退職給付関係）

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、退職金規程に基づく退職一時金制度のほか、確定拠出年金制度を採用しております。

なお、当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2. 簡便法を適用した確定給付制度

（1）簡便法を採用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

（単位：千円）

	第45期 （自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）	第46期 （自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）
退職給付引当金の期首残高	1,546,322	1,482,500
退職給付費用	149,442	147,235
退職給付の支払額	213,264	105,520
その他	-	15,987
退職給付引当金の期末残高	1,482,500	1,540,203

(注) その他は、転籍者の退職給付引当金受入れ額であります。

（2）退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

（単位：千円）

	第45期 （平成29年3月31日）	第46期 （平成30年3月31日）
--	----------------------	----------------------

積立型制度の退職給付債務	-	-
年金資産	-	-
	-	-
非積立型制度の退職給付債務	1,482,500	1,540,203
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,482,500	1,540,203
退職給付引当金	1,482,500	1,540,203
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,482,500	1,540,203

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 第45期 149,442千円 第46期 147,235千円

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、第45期は68,183千円、第46期は72,489千円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	(単位：千円)	
	第45期 (平成29年3月31日)	第46期 (平成30年3月31日)
(1) 流動資産		
繰延税金資産		
未払事業税	12,099	71,030
賞与引当金	386,089	386,761
社会保険料	29,075	30,549
未払事業所税	4,693	4,247
その他	21,191	11,908
繰延税金資産合計	453,148	504,497
繰延税金負債		
その他	5,496	-
繰延税金負債合計	5,496	-
繰延税金資産の純額	447,651	504,497
(2) 固定資産		
繰延税金資産		
退職給付引当金	454,152	471,610
投資有価証券	67,546	67,546
ゴルフ会員権	11,000	11,000
役員退職慰労引当金	28,748	26,961
その他	57,051	62,550
繰延税金資産小計	618,499	639,668
評価性引当額	78,546	78,546
繰延税金資産合計	539,952	561,121
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	16,734	24,367
繰延税金負債合計	16,734	24,367
繰延税金資産の純額	523,217	536,754

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

第45期及び第46期は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下にあたるため注記を省略しております。

(セグメント情報等)

セグメント情報

1. 報告セグメントの概要

当社は、「投資・金融サービス業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

関連情報

第45期（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	投資信託委託業	投資一任業務	その他	合計
外部顧客からの営業収益	28,124,470	4,371,647	64,558	32,560,677

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の顧客からの営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの営業収益のうち、損益計算書の営業収益10%以上を占める相手先がないため、記載は省略しております。

報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。

報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

該当事項はありません。

報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

第46期（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	投資信託委託業	投資一任業務	その他	合計
外部顧客からの営業収益	26,383,145	5,111,757	82,997	31,577,899

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の顧客からの営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の90%を超えるため、地域ごとの

有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの営業収益のうち、損益計算書の営業収益10%以上を占める相手先がないため、記載は省略しております。

報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。

報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

該当事項はありません。

報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

(関連当事者との取引)

第45期（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

兄弟会社等

属性	会社等の名称	住所	資本金 (億円)	事業の 内容又 は職業	議決権 等の所 有割合	関連当事 者 との関係	取引の内 容	取引 金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
その他 の関係 会社の 子会社	大和証 券株式 会社	東京 都 千代 田区	1,000	証券業	-	当社投資信 託に係る事 務代行の委 託等	投資信託に 係る事務代 行手数料の 支払 1	4,766,199	未払 手数料	406,661
その他 の関係 会社の 子会社	株式 会社 三井 住友 銀行	東京 都 千代 田区	17,709	銀行業	-	当社投資信 託に係る事 務代行の委 託等	投資信託に 係る事務代 行手数料の 支払 1	2,372,960	未払 手数料	377,341

取引条件及び取引条件の決定方針等

- 1 投資信託に係る事務代行手数料については、商品性格等を勘案し総合的に決定しております。
- 2 上記金額の内、取引金額には消費税が含まれておらず、期末残高には消費税が含まれています。

第46期（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

兄弟会社等

属性	会社等の名称	住所	資本金 (億円)	事業の 内容又 は職業	議決権 等の所 有割合	関連当事 者 との関係	取引の内 容	取引 金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
その他 の関係 会社の 子会社	大和証 券株式 会社	東京 都 千代 田区	1,000	証券業	-	当社投資信 託に係る事 務代行の委 託等	投資信託に 係る事務代 行手数料の 支払 1	3,987,525	未払 手数料	573,578
その他 の関係 会社の 子会社	株式 会社 三井 住友 銀行	東京 都 千代 田区	17,709	銀行業	-	当社投資信 託に係る事 務代行の委 託等	投資信託に 係る事務代 行手数料の 支払 1	1,969,101	未払 手数料	273,241

取引条件及び取引条件の決定方針等

- 1 投資信託に係る事務代行手数料については、商品性格等を勘案し総合的に決定しております。
- 2 上記金額の内、取引金額には消費税が含まれておらず、期末残高には消費税が含まれています。

（1株当たり情報）

	第45期 （自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）	第46期 （自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）
1株当たり純資産額	7,724円34銭	8,322円66銭
1株当たり当期純利益金額	1,254円63銭	1,220円84銭

（注）潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

1株当たりの当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第45期 （自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）	第46期 （自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）
当期純利益(千円)	4,830,321	4,700,218
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	4,830,321	4,700,218
普通株式の期中平均株式数(千株)	3,850	3,850

（重要な後発事象）

当社と三井住友アセットマネジメント株式会社との合併に関する主要株主間での基本合意について

平成30年5月11日付にて、当社及び三井住友アセットマネジメント株式会社の主要株主である株式会社三井住友フィナンシャルグループ、株式会社大和証券グループ本社、三井住友海上火災保険株式会社、及び住友生命保険相互会社が、当社と三井住友アセットマネジメント株式会社との合併に関する基本合意書を締結しました。

[前へ](#) [次へ](#)

(1) 中間貸借対照表

(単位:千円)

		当中間会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金・預金		18,749,227
前払費用		220,062
未収入金		134,890
未収委託者報酬		3,199,531
未収運用受託報酬		1,318,844
未収収益		40,355
その他		3,640
流動資産計		23,666,551
固定資産		
有形固定資産		
建物	1	304,462
器具備品	1	106,510
土地		710
リース資産	1	9,904
有形固定資産計		421,586
無形固定資産		
投資その他の資産		
投資有価証券		11,160,853
関係会社株式		956,115
従業員長期貸付金		1,123
長期差入保証金		534,276
出資金		82,660
繰延税金資産		841,341
その他		945
貸倒引当金		20,750
投資その他の資産計		13,556,564
固定資産計		14,081,338
資産合計		37,747,889

(単位 : 千円)

当中間会計期間
(平成30年9月30日)

負債の部

流動負債	
リース債務	3,727
未払金	66,584
未払手数料	1,372,290
未払費用	1,215,524
未払法人税等	754,735
未払消費税等	145,434
前受収益	43,935
賞与引当金	566,800
役員賞与引当金	36,000
その他	22,639
流動負債計	4,227,672
固定負債	
リース債務	6,965
退職給付引当金	1,574,978
役員退職慰労引当金	100,760
資産除去債務	248,260
固定負債計	1,930,965
負債合計	6,158,637

(単位：千円)

当中間会計期間
(平成30年9月30日)

純資産の部	
株主資本	
資本金	2,000,000
資本剰余金	
資本準備金	156,268
資本剰余金合計	156,268
利益剰余金	
利益準備金	343,731
その他利益剰余金	
別途積立金	1,100,000
繰越利益剰余金	27,961,448
利益剰余金合計	29,405,179
株主資本合計	31,561,448
評価・換算差額等	

その他有価証券評価差額金	27,803
評価・換算差額等合計	27,803
純資産合計	31,589,252
負債純資産合計	37,747,889

(2) 中間損益計算書

(単位:千円)

当中間会計期間	
(自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)	
営業収益	
委託者報酬	12,879,465
運用受託報酬	2,302,085
その他営業収益	34,382
営業収益計	15,215,933
営業費用	8,779,487
一般管理費	1 3,616,813
営業利益	2,819,632
営業外収益	
受取配当金	14,987
受取利息	89
投資有価証券売却益	4,775
雑収入	635
営業外収益計	20,488
営業外費用	
投資有価証券売却損	4,300
為替差損	224
その他	389
営業外費用計	4,914
経常利益	2,835,206
特別損失	2 21,700
税引前中間純利益	2,813,506
法人税、住民税及び事業税	678,594
法人税等調整額	212,006
法人税等合計	890,600
中間純利益	1,922,905

(3) 中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日）

（単位：千円）

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金	
				別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	2,000,000	156,268	156,268	343,731	1,100,000	28,387,042
当中間期変動額						
剰余金の配当						2,348,500
中間純利益						1,922,905
株主資本以外の 項目の当中間期変 動額（純額）						
当中間期変動額 合計	-	-	-	-	-	425,594
当中間期末残高	2,000,000	156,268	156,268	343,731	1,100,000	27,961,448

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証 券評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	利益剰余金 合計				
当期首残高	29,830,773	31,987,042	55,213	55,213	32,042,255
当中間期変動額					
剰余金の配当	2,348,500	2,348,500			2,348,500
中間純利益	1,922,905	1,922,905			1,922,905
株主資本以外の 項目の当中間期変 動額（純額）			27,409	27,409	27,409
当中間期変動額合 計	425,594	425,594	27,409	27,409	453,003
当中間期末残高	29,405,179	31,561,448	27,803	27,803	31,589,252

注記事項

（重要な会計方針）

1. 資産の評価基準及び評価方法	有価証券 (1) 子会社株式 …総平均法による原価法 (2) その他有価証券 時価のあるもの…中間決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は 全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法 により算定） 時価のないもの…総平均法による原価法
------------------	--

2. 固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 定率法を採用しております。ただし、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物2年～30年、器具備品4年～15年 （会計上の見積りの変更） 当中間会計期間において、当社と三井住友アセットマネジメント株式会社（以下「S M A M」）との間で合併契約を締結したことに伴い、将来利用不能となる固定資産について耐用年数を短縮し、将来にわたり変更しております。 これにより、従来の方法に比べて、当中間会計期間の営業利益、経常利益及び税引前中間純利益はそれぞれ2,226千円減少しております。</p> <p>(2) 無形固定資産（リース資産を除く） 定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。</p> <p>(3) 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</p>
3. 引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員賞与の支払に備えるため、将来の支給見込額のうち当中間会計期間の負担額を計上しております。</p> <p>(3) 役員賞与引当金 役員賞与の支払に備えるため、当事業年度における支給見込額の当中間会計期間の負担額を計上しております。</p> <p>(4) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、社内規定に基づく当中間会計期間末の要支給額を計上しております。これは、当社の退職金は、将来の昇給等による給付額の変動がなく、貢献度、能力及び実績に応じて、各事業年度ごとに各人別に勤務費用が確定するためです。</p> <p>(5) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支払に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく当中間会計期間末の要支給額を計上しております。</p>
4. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。</p>

（表示方法の変更）

（「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更）

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）を当中間会計期間の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。

（追加情報）

当社とS M A Mとの間での合併契約の締結について

当社は、平成30年9月27日開催の当社取締役会において、当社とS M A Mとの間で合併契約を締結することについて決議し、平成30年9月28日付で締結しました。また、平成30年10月31日に当社臨時株主総会において当該合併契約の承認を得ております。

1. 企業結合の概要

(1) 吸収合併存続会社及び吸収合併消滅会社の名称及び事業の内容

吸収合併存続会社の名称 三井住友アセットマネジメント株式会社
 事業の内容 投資運用業、投資助言・代理業等
 吸収合併消滅会社の名称 大和住銀投信投資顧問株式会社
 事業の内容 投資運用業、投資助言・代理業等

(2)企業結合を行う主な理由

資産運用ビジネスはグローバルに成長拡大しており、お客さまから求められる運用力やサービスはますます高度化しております。本件合併は、このようなお客さまからのニーズに対応するために、両運用会社の持つ強み・ノウハウを結集した、フィデューシャリー・デューティーに基づく最高品質の運用パフォーマンスとサービスを提供する資産運用会社の実現を図るものであります。

(3)企業結合日

平成31年4月1日（予定）

(4)企業結合の法的形式

当社を消滅会社とし、S M A Mを存続会社とする吸収合併方式であります。

(5)結合後企業の名称

三井住友D Sアセットマネジメント株式会社

(6)取得企業を決定するに至った主な根拠

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日）の考え方に基づき、S M A Mを取得企業としております。

2. 合併比率及びその算定方法並びに交付予定の株式数

(1)合併比率

当社の普通株式1株に対し、S M A Mの普通株式4.2156株を割当て交付いたします。

(2)合併比率の算定方法

当社はP w Cアドバイザー合同会社を、S M A MはE Yトランザクション・アドバイザー・サービス株式会社を、合併比率の算定に関する第三者算定機関としてそれぞれ選定し、各第三者算定機関による算定結果を参考に、両社の財務の状況、資産の状況、将来の見通し等の要因を総合的に勘案し、合併比率について慎重に協議を重ねた結果、合併比率が妥当であるとの判断し、合意に至ったものであります。

(3)交付株式数

普通株式：16,230,060株

(中間貸借対照表関係)

当中間会計期間（平成30年9月30日）	
1.有形固定資産の減価償却累計額	781,783千円

(中間損益計算書関係)

当中間会計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日）		
1.減価償却実施額	有形固定資産	40,478千円
	無形固定資産	16,211千円
2.特別損失	合併関連費用	21,700千円
合併関連費用は、当社とS M A Mとの合併に関する業務委託費用等であります。		

（中間株主資本等変動計算書関係）

当中間会計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日）

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当中間会計期間末
普通株式（千株）	3,850	-	-	3,850

2. 配当に関する事項

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額（千円）	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
平成30年6月22日 定時株主総会	普通株式	2,348,500	610	平成30年3月31日	平成30年6月23日

（金融商品関係）

当中間会計期間（平成30年9月30日）

金融商品の時価等に関する事項

平成30年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません。

（（注2）をご参照ください。）

（単位：千円）

	中間貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	18,749,227	18,749,227	-
(2) 未収委託者報酬	3,199,531	3,199,531	-
(3) 未収運用受託報酬	1,318,844	1,318,844	-
(4) 未収入金	134,890	134,890	-
(5) 投資有価証券 その他有価証券	11,109,717	11,109,717	-
(6) 長期差入保証金	519,765	519,765	-
資産計	35,031,976	35,031,976	-
(1) 未払手数料	1,372,290	1,372,290	-
(2) 未払費用	878,527	878,527	-
負債計	2,250,818	2,250,818	-

（ ） 金融商品に該当するものを表示しております。

(注1)金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金・預金、(2) 未収委託者報酬、(3) 未収運用受託報酬及び(4) 未収入金

これらはすべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5) 投資有価証券

投資信託であり、公表されている基準価額によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

(6) 長期差入保証金

敷金の性質及び賃貸借契約の期間から、時価は当該帳簿価額と近似しているため、当該帳簿価額によっております。

負債

(1) 未払手数料及び(2) 未払費用

これらはすべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	中間貸借対照表計上額
(1) その他有価証券 非上場株式	51,135
(2) 子会社株式 非上場株式	956,115
(3) 長期差入保証金	14,511

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象としておりません。

(有価証券関係)

当中間会計期間（平成30年9月30日）

1. 子会社株式

子会社株式（中間貸借対照表計上額 関係会社株式956,115千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

2. その他有価証券

(単位：千円)

区 分	中間貸借対照表計上額	取得原価	差額
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの 証券投資信託の受益証券	5,053,937	4,797,266	256,671
小計	5,053,937	4,797,266	256,671
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 証券投資信託の受益証券	6,055,780	6,272,376	216,596
小計	6,055,780	6,272,376	216,596
合計	11,109,717	11,069,643	40,074

(注) 非上場株式（中間貸借対照表計上額 51,135千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

(デリバティブ取引関係)

当中間会計期間（平成30年9月30日）

デリバティブ取引を利用しておりませんので、該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

当該資産除去債務の総額の増減

(単位：千円)

当中間会計期間

（自 平成30年4月1日
至 平成30年9月30日）

期首残高	-
見積りの変更による増加額（注）	248,260
中間期末残高	248,260

（注）主として本社の不動産賃貸契約に伴う原状回復義務等について、当中間会計期間において、新たな情報の入手に伴い合理的な見積りが可能となったため、使用見込期間を当該契約期間と見積り、資産除去債務の金額を計算しております。なお、割引計算による金額の重要性が乏しいことから、割引前の見積り額を計上しております。

（セグメント情報等）

セグメント情報

当中間会計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日）

当社は、「投資・金融サービス業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

関連情報

当中間会計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日）

1. サービスごとの情報

（単位：千円）

	投資信託委託業	投資一任業務	その他	合計
外部顧客からの営業収益	12,879,465	2,302,085	34,382	15,215,933

2. 地域ごとの情報

（1）営業収益

本邦の顧客からの営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため記載を省略しております。

（2）有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの営業収益のうち、中間損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

当中間会計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日）

該当事項はありません。

報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

当中間会計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日）

該当事項はありません。

報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

当中間会計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日）

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

1株当たり純資産額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当中間会計期間 (平成30年9月30日)
(1) 1株当たり純資産額	8,205円
(算定上の基礎)	
純資産の部の合計額(千円)	31,589,252
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	-
普通株式に係る中間期末の純資産額(千円)	31,589,252
1株当たり純資産額の算定に用いられた中間期末の普通株式の数(千株)	3,850

1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当中間会計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
(2) 1株当たり中間純利益金額	499円46銭
(算定上の基礎)	
中間純利益金額(千円)	1,922,905
普通株式に帰属しない金額(千円)	-
普通株式に係る中間純利益金額(千円)	1,922,905
普通株式の期中平均株式数(千株)	3,850

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式は存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

[前へ](#) [次へ](#)

4 利害関係人との取引制限

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- (1) 自己又はその取締役若しくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- (2) 運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- (3) 通常の見積りの条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等(委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下(4)および(5)において同じ。)又は子法人等(委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。)と有価証券の売買その他の取引又は金融デリバティブ取引を行うこと。
- (4) 委託会社の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額若しくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
- (5) 上記(3)および(4)に掲げるもののほか、委託会社の親法人等又は子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為

5 その他

- (1) 定款の変更、事業譲渡または事業譲受、出資の状況その他の重要事項

当社の定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

大和住銀投信投資顧問株式会社は、関係当局の認可等を得ることを前提に、2019年4月1日に三井住友アセットマネジメント株式会社と合併し、三井住友DSアセットマネジメント株式会社となる予定です。

- (2) 訴訟事件その他重要事項

委託会社およびファンドに重要な影響を与えると予想される訴訟事件等は発生していません。

委託会社の営業年度は、毎年4月1日より翌年3月31日までとし、営業年度末に決算を行います。

[前へ](#)

第2【その他の関係法人の概況】

1 名称、資本金の額及び事業の内容

原届出書の内容は下記事項の内容に訂正されます。

(1) 受託会社

名称	資本金の額（百万円） 2018年9月末現在	事業の内容
株式会社りそな銀行	279,928	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。

<参考：再信託受託会社（日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社）の概要>

- ・資本金：51,000百万円（2018年9月末現在）
- ・事業の内容：銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。
- ・再信託の目的：原信託契約にかかる信託事務の一部（信託財産の管理）を原信託受託会社から再信託受託会社（日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社）へ委託するため、原信託財産の全てを再信託受託会社へ移管することを目的とします。

(2) 販売会社

名称	資本金の額（百万円） 2018年9月末現在	事業の内容
ワイエム証券株式会社	1,270	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。

以上

独立監査人の監査報告書

平成30年12月21日

大和住銀投信投資顧問株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 飯田 浩司 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 佐藤 栄裕 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているYM・ジャパン・イノベーション・オープンの平成30年5月22日から平成30年11月21日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、YM・ジャパン・イノベーション・オープンの平成30年11月21日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

大和住銀投信投資顧問株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注1) 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注2) XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成30年6月5日

大和住銀投信投資顧問株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 飯田 浩司 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 梅津 広 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている大和住銀投信投資顧問株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第46期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、大和住銀投信投資顧問株式会社の平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、平成30年5月11日付にて、会社及び三井住友アセットマネジメント株式会社の主要株主が、会社と三井住友アセットマネジメント株式会社との合併に関する基本合意書を締結した。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注1) 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注2) XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

平成30年12月3日

大和住銀投信投資顧問株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 飯田 浩 司 印
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 佐藤 栄 裕 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている大和住銀投信投資顧問株式会社の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの第47期事業年度の中間会計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、大和住銀投信投資顧問株式会社の平成30年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

強調事項

追加情報に記載されているとおり、会社は、平成30年9月27日開催の会社の取締役会において、会社と三井住友アセットマネジメント株式会社との間で合併契約を締結することについて決議し、平成30年9月28日付で締結した。また、平成30年10月31日に会社の臨時株主総会において当該合併契約の承認を得ている。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注1) 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注2) XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

[前へ](#)